



内分泌代謝・血液・老年内科学の横手幸太郎教授が  
渋谷教育学園幕張中学校・高等学校で講演を行いました

令和3年11月30日に、医学部附属病院長であり、大学院医学研究院内分泌代謝・血液・老年内科学の横手幸太郎教授が、学校法人渋谷教育学園幕張中学校・高等学校で講演を行いました。

「理系であり文系でもある医学部の魅力とは？—Beyondコロナの時代へ向けて—」と題して、もともと文系志望の中高生だった横手教授が、医師・研究者・病院経営者として歩んできた経験を通じて、医学を学ぶことの意義やコロナ後の社会を担う中高生に期待することについて講話しました。

講演後には、中学校・高等学校の生徒さんからたくさんの質疑があり、全体質疑終了後も個別に横手教授へ質問やご挨拶のお声掛けがありました。



講演の様子



質疑に答える横手教授